

「校内別室の活用」について ～安心して過ごせる居場所づくり～

不登校児童の状況

対象児童は小学校4年生。5月から来室。自分で時間管理ができる面もある一方、急な予定変更が起きると、混乱することもあり、教室の中に入ることができなくなった。集団の中で生活することが難しくなり、校内別室であれば、登校できる状態であった。

具体的な取組

○支援員との信頼関係

「何をしても、しなくてもいい」という理念の下、校内別室では安心して過ごすことができるよう、支援員を配置した。自分や家族のこと、学校のことなど、いろいろなことを相談できるよう信頼関係を築くようにした。

○自分で予定を決める

朝の会で、担任と予定を確認する。その後、校内別室の黒板に時間割を書き、教室に行ける時間、行けない時間など一日の動きを自分で決めることができるようにした。その決定を尊重し、教員や支援員から「～したらどうかな。」などという声かけはしないようにした。

○過ごす環境を自分でつくる

たわいのない会話を楽しんだり、他の児童と工作をしたり、穏やかに過ごしたりしながら、友達と一緒に活動するスペースと個別ブースで自習することができるスペースを自分たちでレイアウトできるように、パーティションを配置した。



○一人1台端末を使った連携・情報共有

校内別室の利用希望や利用状況を学習支援アプリのチャットでリアルタイムに共有した。給食の喫食場所の共有や教室に戻るタイミング・行事の練習への参加等を担任はすぐに確認することができた。また、支援員は一日の記録を学習支援アプリに記載し、関係者間で共有できるようにした。

成果

6月後半までは給食も校内別室で食べ、教室に入ることができなかったが、自分ができることを自分で考え行動することを通して、9月からは教室で過ごす時間が少しずつ増えた。担任との信頼関係を深めた結果、別室の利用時間は半分程度に減少した。

課題

教科学習をしようと思っ
ていても、遊んでいる子が
いるとつられて遊んでしま
うなど、学習に向けた支援
を継続する必要がある。